

小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会【結果】

日時：令和6年11月14日（木）

午後7時2分～7時48分

場所：深川市役所 大会議室

■参加者 17名

（保護者2・学校運営協議会委員5・町内会役員1・市議会議員6・校長1・その他2）

教育委員会：三浦教育長・轡田教育委員・伊藤教育部長・佐藤学務課長・

星野学務補佐・山崎管理係長・徳武事務補

■司会進行 伊藤教育部長

1. 教育長挨拶

2. 資料説明（山崎管理係長）

- ・資料1～小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会
- ・資料2～小学校別学級数及び児童数推計
- ・別添1～深川市学校配置基本方針
- ・別添2～深川市学校配置基本方針に基づく小学校に係る対応について

3. 意見交換

※以下の記録は要点を整理した概要であるとともに、個人に関する内容や単純に資料を確認する発言などは省略しています。

○その他の参加者

～資料1の3ページにある学校配置の経過についての質問です。平成24年度に方針が示されて、その後、方針に基づき平成26年4月に中学校が統合されましたが、今どのように統合に向けた考え方など協議が開始されたのか、今回の目的となっている小学校配置に関して参考とするため教えてください。

○教育委員会

～まずは平成21年度に今回と同じように市民の意見を聞く機会として、「学校関係者による懇話会」を開催いたしまして、その後、平成22年度には懇話会で出された意見などを踏まえた深川市学校配置基本方針の検討素案というものを教育委員会で作成し、その内容を地域に示した上で、改めてご意見をいただくなどしながら基本方針を策定したところです。

○その他の参加者

～中学校が統合となった基本方針について、そのように至った決め手や、考え方の基本はどういうものか、反対意見にはどういったものが何件出たのかなど教えて欲しいです。

○教育委員会

～今回配布している別添1の資料が基本方針となりますが、2ページでは「望ま

しい学校の配置の考え方」として、学習面や生活面、学校運営などといった項目で内容を整理しています。当時の細かな内容を把握する資料などは、現在、持ち合わせておりませんので詳細はお伝えできませんが、方針を策定していく中では、地域の皆さんの声をお聞かせいただきながら進めるということを基本としています。

○学校運営協議会委員

～一已小学校における現状と将来推計は、児童数は減るものの大きな変化が少ない印象です。令和10年度からは1学級となる学年があり、人数としては1学級35人なので適度なのかなと思いますが、その先のことになるかとまだまだ考えなければならないことはあるのかなと思います。

○学校運営協議会委員

～私は入志別に生まれ、当時クラスには27人いました。みんなで野球をしたとか、そうした環境についての意見は言えますが、生まれ育った環境がそれぞれ違うため、人数が変わっていくということから統合を考えてみても正直ぴんときていません。

今回、資料を見て思ったこととしては、複式学級になってまでも統合しないんだということや、統合しないということは、きっと地域の方が反対したということなのかなと思いました。

私の子どもは入志別と一已で統合となっていますが、今回、統合に賛成か反対かといった意見はありません。

○学校運営協議会委員

～元教員です。小規模校の教員のときに統合を経験しています。当時の記憶で一番残っていることと言えば、「人数が少ないため体育で行うソフトボールで2チームに分けることができないのはちょっと・・・」ということを保護者に言われたことです。

当時の私は少人数によって、丁寧に子ども達に接することができることは良いことだと考えていましたが、そのようなことを言われると「確かに団体競技はできないか・・・」と感じました。

小学生の時はいくら小さい学校にいても、その後に社会性が養われる中学校があって、その上にさらに社会性が増す高校があって、そうした流れの中で成長していくものだと思っていました。

私は小さな学校においては、丁寧に子ども達を育て上げ、その子たちが中学校に上がり、その後も立派になっていく様子を見ているので、小規模校の良さについての考え方に変わりはありませんが、市内の学校が私の想像よりも早いスピードで小さくなっている状況もあります。

そう考えると一番大切なことは、市が保護者や子ども達の声を十分に聴きながら、どんな子どもに育てていきたいのかを考え、それに挑んでいくことではないかと思いますので、保護者や子ども達の心を大切にしながら、今後のことを進めて欲しいと思います。

○保護者～一已小に娘がいます。一已小は子どもも学級も多いかもしれませんが、将来推計を見ると、多度志小は令和10年度に入学者が0人となることや、納内小も人

数が少ない状況ですので、遊びや体育でできることは限られてしまうと思います。
ただ、通うとなると通学時間とか色んなことがあると思うので、地域の方と話し合っていくことが大切だと思います。

○学校運営協議会委員

～きっと一己小は人数もいるため残ることになると思いますが、統合するとなると小さい学校が大きいところに加わるのかなと感じます。将来推計のとおり、子どもが減っているので、地域の方々と話し合いを重ねながら統合することがいいのかなと思います。

○学校運営協議会委員

～小学生は人数が多いより少ない方が先生たちの目が行き届くので良いと思いますが、一方で学校施設の修繕が進まないなど、ハード面の整備も難しい状況になると思います。

そういう面を考えるとゆくゆくは、統合という形も仕方ないのかなと思います。一方で、例えば中学校区に準ずるという形で統合を考えた時に、多度志、納内、更進や菊丘の子ども達が朝何時に起きて通学することになるのか考えたときに、距離が遠いため大変だと思いますので、一概に統合ということは難しいのかなと思います。

○学校運営協議会委員

～別添資料1を見ると、学習面や生活面から見て統合していきますということが書いてあって、親御さんも気になる部分だろうと思います。別添資料2では、様々な意見が記載されています。

私も地域の人に登校時に声掛けしてもらって育ちましたので、昔から地域で子どもを育てるという仕組みが出来上がっていたと思います。今も多度志や音江や納内でも自分の子どもや孫がいるいないに関わらず、声をかけていることを思うと地域の方も子ども達もお互いに励まされて元気をもらっているのかなと思います。

地域の中に小学校があるかないかで地域の活性化が全然変わってくるので、そういった意見が別添資料2にあります。はじめに教育委員会として統合に関する考えは今持っていないとおっしゃっていましたが、私としては平成24年のときにも同じような意見が出されたと思うので、統合の結果についてどういった検証がされたのかということに興味があります。

多分、今回も子どもが多い方が競争心がつくとか、スポーツのチームが作れるとかメリットを考える親は多いと思いますが、そうではない親達のご意見も資料の中に記載されていて、過去に統合してきた経過がありますので、今回の場において、統合後の地域は、今どうなったのかという報告をもらえると、各校の統合について考える場において色々な意見が出るのかなと思います。

今日いただいた資料を見て地域から学校がなくなるのは寂しいだろうなと感じていました。

○その他の参加者

～今日出席できなかった方の意見について聞いていただきたいのですが、統合という形でこれから学校を考えていったときに、それによって子ども達の勉強がど

うなっていくのかということを考えている人がいました。

この方の意見は、今の子ども達は、自分達の頃よりも学力が落ちているのではないかと危惧している人で、これから統合して人数が増えることになった場合、授業の在り方として先生がどのくらい目配りできるのか心配だという考えを持っていました。

そうしたときに授業についていけなくなる子どもや、投げやりになる子どもが増えてしまうのではないかと懸念されていて、そうなるのであれば人数をある程度抑えて、勉強ができる形にした方が良いのではないかという考えを聞きましたのでお伝えいたします。

○教育委員会

～皆さんからのいただきました大変貴重な意見ありがとうございました。今後どのような方向で持っていくのか十分精査して進めていきたいと思っております。

以上をもちまして、本会を終了したいと思います。

以上